

◇ 1 年生水質調査班、琉大(農学・理学)プロジェクト水質調査へ参加(11 月 27 日)

沖縄島南部は(亜熱帯地域の琉球石灰岩由来の土壌地域)であり、そこでは地下水系が発達します。本校の位置する八重瀬町も湧水が豊かで飲み水としても利用しているが、農地から流失する有機窒素や化学肥料の影響を受けており「持続した水資源の利用を維持するため水質モニタリングが重要だ」と考える。また、湧水からは未だに新種の生物が発見されるなど、研究すべきテーマも多い。現在琉球大学農学部の安元先生を中心としたプロジェクト研究や国立研究開発法人・産総研主任研究員 井口氏などによるサンゴ礁保全の研究などが行われており、本校理数科 1 年も SS リテラシーで特別授業を企画し・地域の水質に目を向けた様々な研究に取り組む予定です。

11 月には大学の研究現場に同行し、研究手法を見学しました。右図は 1 年生代表 10 名が現地で安元先生から、測定項目の設定やそこから何をどう検証していくかなど、説明を受けました。(安元先生の説明)



(八重瀬地区水質測定の見学)

♡ 1 年生「SS リテラシー」特別授業(12 月 8 日)

1 年 SSH 科目「SS リテラシー」において、水文学、地質学、サンゴ礁学の専門家を講師に招聘し、課題探究で必要な知識や技術を習得することを目的に 12 月 8 日に特別授業を実施しました。

水文学の専門家「安元 純(琉球大学農学部・助教授)」氏の授業では、「陸と海とを繋ぐ地下水の役割」というテーマのもと、生徒達が陸と海との繋がりを考えることができる内容でした。豊かな海を育て、海洋生態系を維持するには陸上生態系が重要であることや、人間が利用できるわずかな水資源のうち、新たな水資源としての可能性を秘める地下水の存在についてお話いただきました。生徒達も研究者の活動内容や地下水についての新たな知識に興味を持ち、必死にメモを取る姿が印象的でした。



【特別授業の様子】



【特別授業の様子】



【生徒が取ったメモの様子】

《生徒達の感想》

- 私たちが日頃飲んでいる水に地下水が使われていることを知って、地下水を綺麗に保ち守っていききたいという思いが芽生え、そのために私たちができることを考え研究していききたいと思った。
- 世界中に私たちが飲める水は少ないということがわかった。また飲み水として利用できる地下水のほとんどは、南極などで絶対零度で凍っており、使い物にならないとわかった。
- 森や街の水環境が健全でなければ豊かな海は育たない、という里海の考え方を知れた。